

9 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

□ あとの問一～問八に答えなさい。

問一 次のア～オの読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

ア 乙瑛碑 イ 詔版 ウ 祝允明 エ 馬王堆帛書 オ 手鑑

問二 次のア～オの語をそれぞれ漢字で書きなさい。

ア はたく イ ぞうぞうき ウ ちようもうりようひ エ がつきろん オ ほんあみこえつ

問三 次のア～オは、書道に関連のある語です。それぞれの説明を簡潔に書きなさい。

ア 文房四宝 イ 拓本 ウ 側款 エ 料紙 オ 踊り字

問四 次の図版①～⑤は「十七帖」の一部です。書かれている文字を、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

問五 「鄭義下碑」に関して、あとのア～オに答えなさい。

ア 「鄭義下碑」の読みを平仮名で書きなさい。

イ 「鄭義下碑」を書いた人物名を漢字で書きなさい。

ウ 次の図版①～④は「鄭義下碑」の一部を示したものです。それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

エ 「鄭義下碑」の用筆・運筆の特徴を簡潔に書きなさい。

9 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

オ 次の図版①は、「鄭義下碑」と同じく「摩崖」の古典です。次の資料を参考にして、この古典名を漢字で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

問六 次の文章は、仮名の成立について述べたものです。文章中のア、カに当てはまる語を漢字で書きなさい。

古来、日本には固有の文字がなく、中国から漢字が伝わると、その音を借りて日本語が表記されるようになった。これが仮名の起こりである。漢字の楷書や行書で書かれた「ア」「イ」は、主に万葉集で使用されたことから「イ」とも呼ばれた。その後、平安時代に入ると、次第に草書で書かれるようになり(草仮名)、字源の姿が分からないほどに略されたものを「ウ」と呼ぶ。

「一つの音にいくつもの漢字や字形が当てられていた仮名であるが、明治時代に整理され、一音に一字が決められた。これが現在使われている「エ」「オ」と呼んで区別するようになった。また、「カ」は、九世紀の初めごろに、主に漢字の一部を採って作られたもので、漢文や仏典の訓読の補助として使われた。

9 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

問七 次の図版①・図版②について、あとのア～ウに答えなさい。

図版 ①

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版 ②

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

ア 図版①の古筆の名称を書きなさい。また、その特徴を簡潔に書きなさい。

イ 図版②は、図版①の一部を拡大したものです。ここで示されている五つの文字の字源をそれぞれ楷書で書きなさい。

ウ 図版①について、和歌の部分の文字を全て平仮名で書きなさい。また、その和歌の大意を書きなさい。

問八 次のア・イに答えなさい。

ア 次の文は、唐の張懷瓘の「文字論」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。

文則數言乃成其意、書則一言已見其心。

イ 次の文は、清の朱履貞の「書学捷要」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。

書大須存意思。

9 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

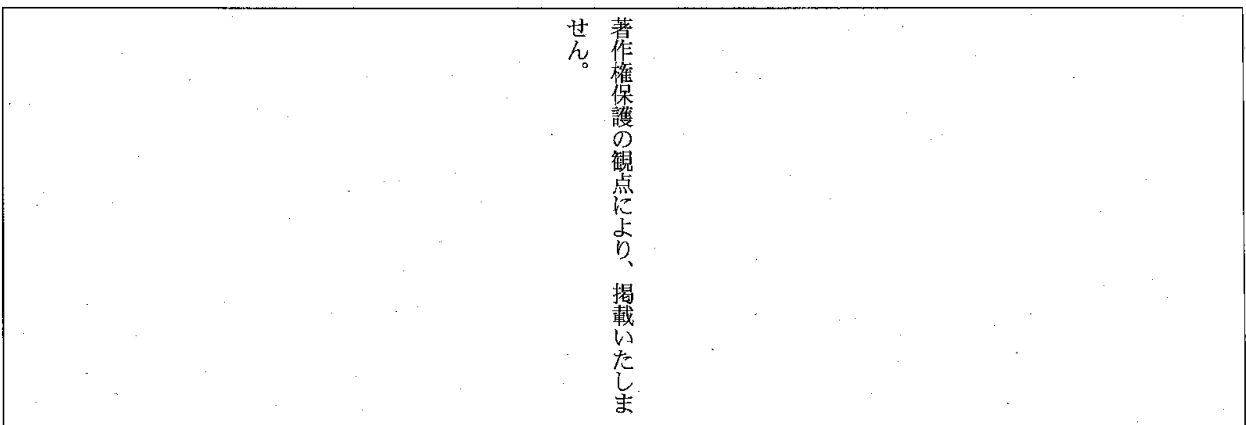
(五枚のうち四)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

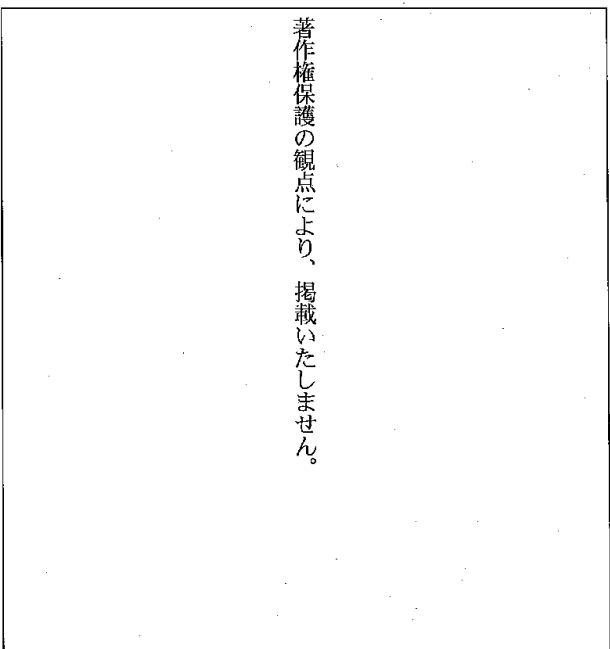
(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

二 次の図版①は「蘭亭序(神龍半印本)」を示したものです。図版②は図版①の一部を拡大したものです。「書道Ⅰ」において、この図版を用いた表現及び鑑賞の授業を行うこととします。あとの問Ⅰ・問Ⅱに答えなさい。

図版 ①



図版 ②



問Ⅰ 「蘭亭序」は歴史的に評価が高い古典です。鑑賞の指導に当たって、生徒にこの作品の歴史的な価値を理解させるためには、図版①のどのような点に着目させますか。着目させる点と、その理由を書きなさい。

9 高等学校 芸術科（書道） 問題用紙

（五枚のうち五）

受験番号		
氏 名		

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

問一 表現の指導に当たって、図版②の中から連続した四文字を選択し、生徒に半紙に臨書させることとします。どの部分を選択しますか。選択する四文字と、その理由を書きなさい。

「書道Ⅰ」において、「漢字仮名交じりの書」の授業を行うこととします。次の問一・問二に答えなさい。

問一 生徒自身が選定した言葉を題材とし、全四時間で創作を行うこととします。どのような学習活動を設定しますか。次の資料の既習事項・単元目標・単元の評価規準を踏まえ、学習活動及び指導上の留意点を書きなさい。なお、創作において使用する用紙は、半紙及び半切二分の一の大きさとしします。

資料

既習事項	単元目標	単元の評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「漢字の書」及び「仮名の書」の学習は終了している。 ・唐の四大家、三筆・三跡の書、三色紙の古典を扱っている。	漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けるとともに、名筆を生かした表現や現代に生きた表現や現代に生きる表現について構想することで、幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む態度を養う。	・名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。	・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 ・創造された作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

問二 表現の学習活動において他者の著作物を使用して創作を行うこととします。創造的に表現された他者の詩・和歌・俳句などの作品を素材として書作品にする際の指導上の留意点を書きなさい。

四 平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ 目標 (1) には、「書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。」と示されています。「効果的に表現するための基礎的な技能」とは、どのような技能ですか。「臨書活動」及び「創作活動」について、それぞれ簡潔に書きなさい。

(四枚のうち二)

受験番号

氏名

二													問題番号
問五		問四		問三					問二		問一		解答欄
ウ		ア	④	①	オ	エ	ウ	イ	ア	エ	ア		
④	①												
	②	イ	⑤	②						オ	イ		
	③			③						ウ	ウ		

9 高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(四枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号										解答欄	
問八		問七					問六		問五		
イ	ア	ウ (大意)	ウ (平仮名)	イ	ア (特徴)	ア (名称)	エ	ア	オ	エ	
							オ	イ			
							カ	ウ			

9 高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(四枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

三			二			問題 番号	解 答 欄
問一			問二		問一		
二時間目	一時間目	時間	(理由)	(文字)			
		学習活動					
		指導上の留意点					

9 高等学校 芸術科（書道） 解答用紙

（四枚のうち四）

受験番号	
氏名	

四		三			問題番号
		問二	問一		
（創作活動）	（臨書活動）		四時間目	三時間目	時間
					学習活動
					解答欄
					指導上の留意点